

# ハッタジュズイミミズ

## ナガミミズ目ジュズイミミズ科

*Drawida hattamimizu* Hatai

石川県カテゴリ 絶滅危惧 I 類

国カテゴリ 準絶滅危惧

### 選定理由

石川県と滋賀県でのみ分布が知られている。金沢市八田町が本種の基産地であり、石川県内では現在その町の周辺2kmほどの範囲内にしか分布が知られていない。しかも近年、その生息域の狭小化、生息密度の低下、大型個体の減少が著しくなっている。

### 形態

体色は青黒色。日本一長いミミズで、生きているときは伸びた体長が60cmほどにもなり、以前は1mほどにもなる個体がいたという。固定標本では長さ25cmほど、太さ9mmほどである。体節数は約300。ジュズイミミズ属は各体節に4対8本の剛毛を持ち、背面に背孔がなく、環帯が不鮮明で、雄性孔が10/11体節間溝にある。本種は体内にある砂のう（胃）が12~13体節に6個以上並び、乳状突起が6~9体節と11~13体節の各節に1対あることで、同属の近縁種と区別できる。

### 国内分布

石川県の河北潟近辺と滋賀県の琵琶湖近辺に分布している。

### 県内分布

金沢市八田、才田、忠縄、南森本あたりに分布。1930年ごろの分布域は前記各地を中心としてJR北陸線に沿ってJR津幡駅付近から金沢市鳴和付近までに及んでいた。

### 生態

半水生のミミズで水田の水路わき、あぜのへり付近に特に多くいるが、その水のつかない所に糞塊を排出しているので、これが生息の目印として便利である。生息密度が高い田では稲刈り時期になり水を落とすと水田中央部にも糞塊ができることがあったらしいが、今はそのような田はほとんど見られない。詳しい生態は分かっていないが、同時期にさまざまな大きさの個体が混じって認められることから寿命は長いのでないかと思われる。

### 生息地の条件

半湿田的環境が適しているように思われる。

### 生存の危機

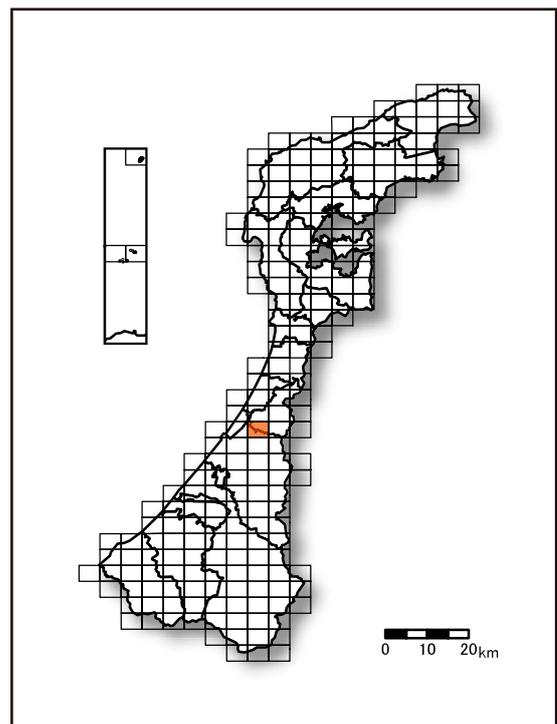
水田への客土、農業散布、水路・あぜのコンクリート化、農地の宅地・工場用地化などで生息環境は著しく悪化しつつあり、辛うじて生き残っている状態である。(A)

### 参考文献

Hatai, S. 1930. On *Drawida hattamimizu*, sp. nov. The Sci. Rep. of The Tohoku Imp. Univ. Series (Biology), V(3): 485-508.  
市村唐・安田作次郎 1931. 石川県天然記念物調査報告. 第7輯. 102pp. 石川県.  
渡辺弘之 2005. 琵琶湖周辺に分布するハッタミミズとその保護について. 関西自然保護機構会誌:27(2): 3-9.



写真提供者: 高橋奈苗



県内の分布

# イソコモリグモ

*Lycosa ishikariana* (S.Saito)

## クモ目コモリグモ科

石川県カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類

### 選定理由

砂浜海岸にのみ生息する大型のクモ。全国的に生息地点、個体数の減少が著しく、石川県では2008年の生息海岸総延長は1950年代にくらべて5分の1以下になっている。

### 形態

体長が雌23mm前後、雄19mm前後。背面は明るい灰色で数対の淡黒斑があり、腹面は全体に真っ黒。

### 国内分布

北海道、本州。本州は日本海側では青森県から島根県まで、太平洋側では青森県から茨城県まで。

### 県内分布

珠洲市東部、輪島市大川・増穂浦・剣地、志賀町、羽咋市、かほく市、内灘町、白山市美川、加賀市それぞれの海浜。

### 生態

砂浜海岸の海浜植物帯およびその海側の砂裸地の乾砂部を生息域とし、砂中に縦穴を作ってその中に潜む。穴の入り口から少し奥の範囲までは穴の内面を糸で裏打ちしてあるので、穴の縁に触れても砂がくずれない点で、砂浜に存在する他の小動物の穴と容易に区別できる。大きな穴で径15mm、深さ15～20cmほど。昼間や特に夏期は穴の入り口を封鎖している場合も多いが、夜間に穴の周辺に出て周囲を通る昆虫などの小動物を捕食する。越冬期間中に卵から孵化し、卵のうから出た子グモが5月下旬ごろから穴外に現れ、分散して小さい巣穴を作る。これが成長してふたたび子グモを出すまでには2冬を経過する。

### 生息地の条件

海浜植物帯が成立する砂浜海岸。

### 生存の危機

海岸線の侵食による後退と海岸線沿いに建設される道路、防波堤など諸種の人口造営物の増加、砂浜海岸への自動車乗り入れの増大などのため、本種の生息可能砂浜の消滅が激しく、生息個体数が激減している。(A)

### 特記事項

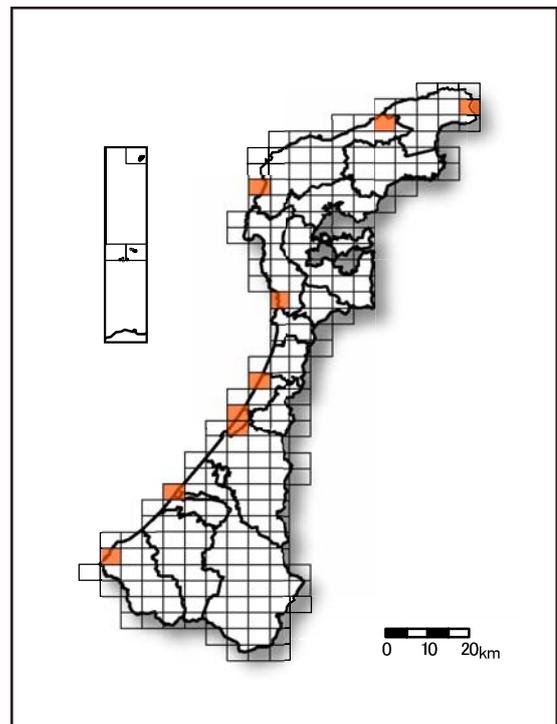
石川県指定希少野生動植物種（2007年）。

### 参考文献

- 千国安之輔 2008. 写真日本クモ類大図鑑改訂版. pp. 308. 偕成社. 東京.  
藤田 衛 1939. Acta Arachnologica, 47(2): 134-138.  
徳本 洋 2004. 石川県におけるイソコモリグモ *Lycosa ishikariana* (S. Saito, 1934)の激減. のと海洋ふれあいセンター研究報告, 10: 21-30.  
徳本 洋 2006. イソコモリグモ残存率算定へのアプローチ. 遊糸 (日本蜘蛛学会連絡誌), 19: 6-12.



写真提供者: 徳本洋



県内の分布

# キシノウエトタテグモ クモ目トタテグモ科

*Latouchia swinhoei* (Kishida)

石川県カテゴリ 準絶滅危惧

国カテゴリ 準絶滅危惧

**選定理由** 人の居住区域に近い所に棲んでおり、生息適地が失われやすく、全国的に減少してきている。

**形態** 体長10～15mm、雄9～12mmほど。頭胸部は光沢ある濃い黒褐色、腹部は長球状で淡いチョコレート色で、その背面に数対のさらに淡い色の矢状斑紋がある。

**国内分布** 本州、四国、九州。本州では太平洋側は宮城県、日本海側は岩手県がそれぞれの既知北限である。

**県内分布** 金沢市内で3箇所の記録があるのみ（泉野出町、兼六園、常磐町）。分布調査が不十分であり、もっと多くの分布地があると思われる。

**生態** 社寺境内や公園の敷石のわき、家の土台石のわき、あるいは丘陵地の崖地など、比較的乾いた明るい所の地中に深さ15～20cm（メス成体）の縦穴（崖では横や斜めの穴）をほって住居としている。穴の入口に円形片開きのフタづくり、そのすぐ内側にクモがいて、付近を虫が通ると飛び出してつかまえ、穴に引きずりこんで餌とする。フタは土などを着け、カムフラージュされているので見つけにくい。雌は10年以上生きる。雄は9～11月に雌を求めて徘徊する。このクモに寄生するクモタケという菌類があり、その棍棒状をした白っぽい子実体が梅雨期に地表に現れるが、これはクモの巣の所在を示すためのよい目印となる。

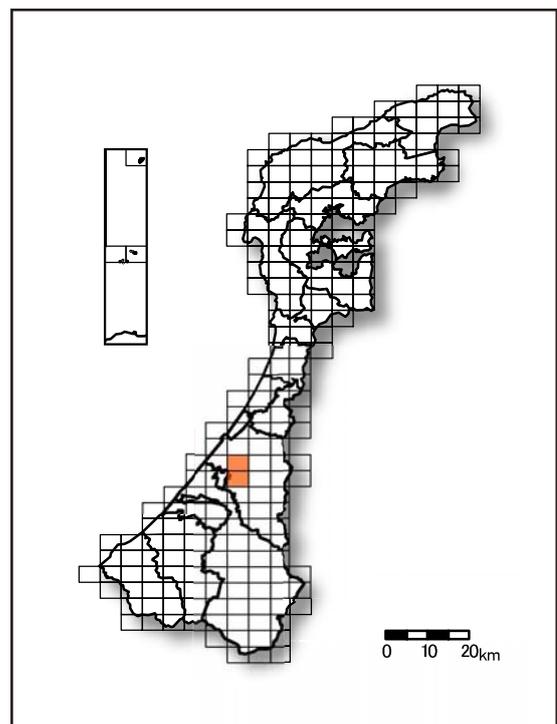
**生息地の条件** 上記のような所によくいるが、詳しい条件については不明。

**生存の危機** 石川県では分布密度が低いようであるが、人居住地に近い所に棲むだけに生息地が消失しやすい。  
(A)

**参考文献** 畑守有紀・新海明・上田俊穂 1997. クモタケの全国分布調査結果. *Kishidaia*. (72) :34-47.  
笹岡文雄 1992. キシノウエトタテグモの寿命について. *Kishidaia*. (63) : 31.  
鈴木成生 1996. キシノウエトタテグモの生態(1), (2), (3), (4). *Kishidaia*. (70) : 35-56.



写真提供者: 谷川明男



県内の分布

# キノボリトタテグモ

クモ目トタテグモ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー 準絶滅危惧

*Ummidia fragaria* (Doenitz)

**選定理由** コケむした古木の幹上や岩上に巣をつくり生息するが、全国的に生息個体が減少しつつある。

**形態** 体長が雌で9～11mm、雄で6～8mm、全身黒紫色。液浸にすると頭胸部は褐色に変わる。

**国内分布** 南西諸島、九州、四国、本州。本州では太平洋側は茨城県、日本海側は新潟県が各既知分布北限である。

**県内分布** 金沢市兼六園内での記録があるだけ（畑守ほか、1997）であるが、県内には未発見の生息箇所がまだいくつかあると思われる。

**生態** 樹木や岩の表面にコケや樹皮くずを貼り付けた袋状の住居をつくり、入口に円形で片開きの蓋をつける。住居の入口は下向きが多い。住居の大きさは成熟した雌で径1cm、長さ3cmほどであり、切り開くとピーナッツの皮を開いた感じである。中にいるクモは付近を昆虫などの小動物が通ると飛び出して捕らえる。越冬期に調査すると、親と同居している小さな幼体、独立した幼体、亜成体、成体というようにいろいろな成長段階のものが認められるので、キシノウエトタテグモと同じくかなり長い年数を生きるものと思われる。

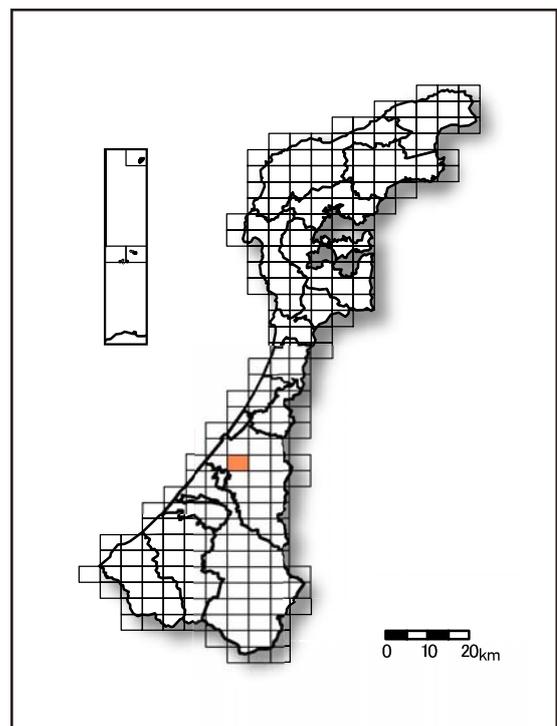
**生息地の条件** あまり日光の直射しない岩の壁面や古木の多い環境を好む。

**生存の危機** 石川県は分布北限に近く、生息に適した環境も少ないので生息密度は低いと思われ、生息地の環境保護に注意しないと消失する恐れがある。（A）

**参考文献** 千国安之輔 2008. 写真日本クモ類大図鑑, pp306. 偕成社, 東京.  
畑守有紀・新海明・上田俊穂 1997. クモタケの全国分布調査結果. Kishidaia. 72: 34-47.



写真提供者：谷川明男



県内の分布

# ワスレナグモ

*Calommata signata* (Karsch)

## クモ目ジグモ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー 準絶滅危惧

### 選定理由

生息密度の低い種であるが草地、芝生、公園など比較的乾燥した地中に縦穴を掘り、その中に住む。このような環境は人為破壊を受けやすいので生息適地が失われやすく、全国的に減少してきている。

### 形態

体長メス15～18mm、オス6～8mmほど。メスは頭胸部や脚は黄褐色。腹部は褐色で頭胸部前に突き出した大きなキバが目立つ。第一脚は細いが第二～四脚、特に第三・四脚は太短い。オスは脚も含めてほぼ全身黒褐色であるが、脚の先端部付近だけが黄褐色。オスはすべての脚が細長い。

### 国内分布

本州、四国、九州だが、本種が未記録の県はまだかなりある。

### 県内分布

県内4箇所記録があるのみであるが、分布調査が不十分であり、もっと多くの分布地があると思われる。

### 生態

前記のような環境の地中に深さ15～20cm（メス成体）の縦の管状の穴を掘り、その中に住む。穴の裏側は糸の膜で裏打ちされており、穴の入口にはトタテグモのようなふたはないから、このような穴を見つけることがこのクモの存在を知る重要な手段となる。穴の入口から放射状に触糸を地表に引いてあり、近くを通った虫がこの糸に触れると電光石火の速さで飛び出して長い牙をつきさして穴に引きずり込む。

### 生息地の条件

上記のような所で見つかることが多い。比較的狭い区域から多数の住居穴が見つかる例がときどき報告されているから、穴を見つけたときは付近をよく調べてみる必要がある。

### 生存の危機

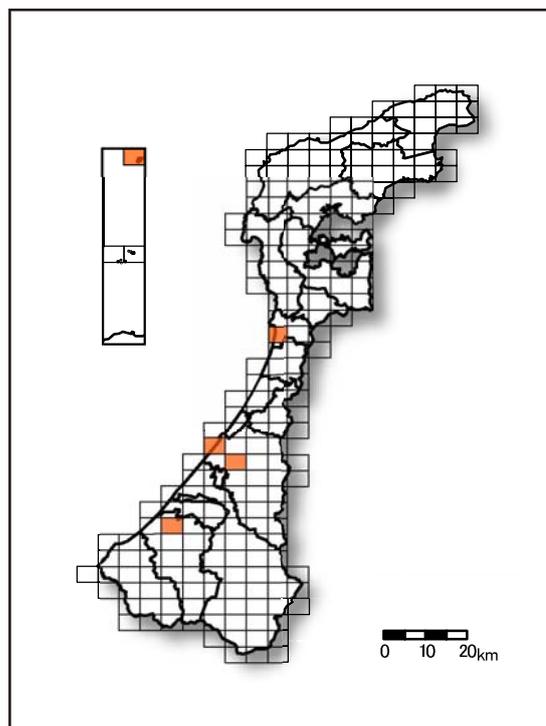
石川県では分布密度が低いようであるが、前記のような環境に棲むだけに生息地が消失しやすい。  
(A)

### 参考文献

千国安之輔 2008. 改訂写真日本クモ類大図鑑. 偕成社. 東京.  
徳本 洋 1990. 石川県の真正クモ類. 石川の生物. 200-207. 石川県高校教育研究会. 金沢.



写真提供者: 谷川明男



県内の分布